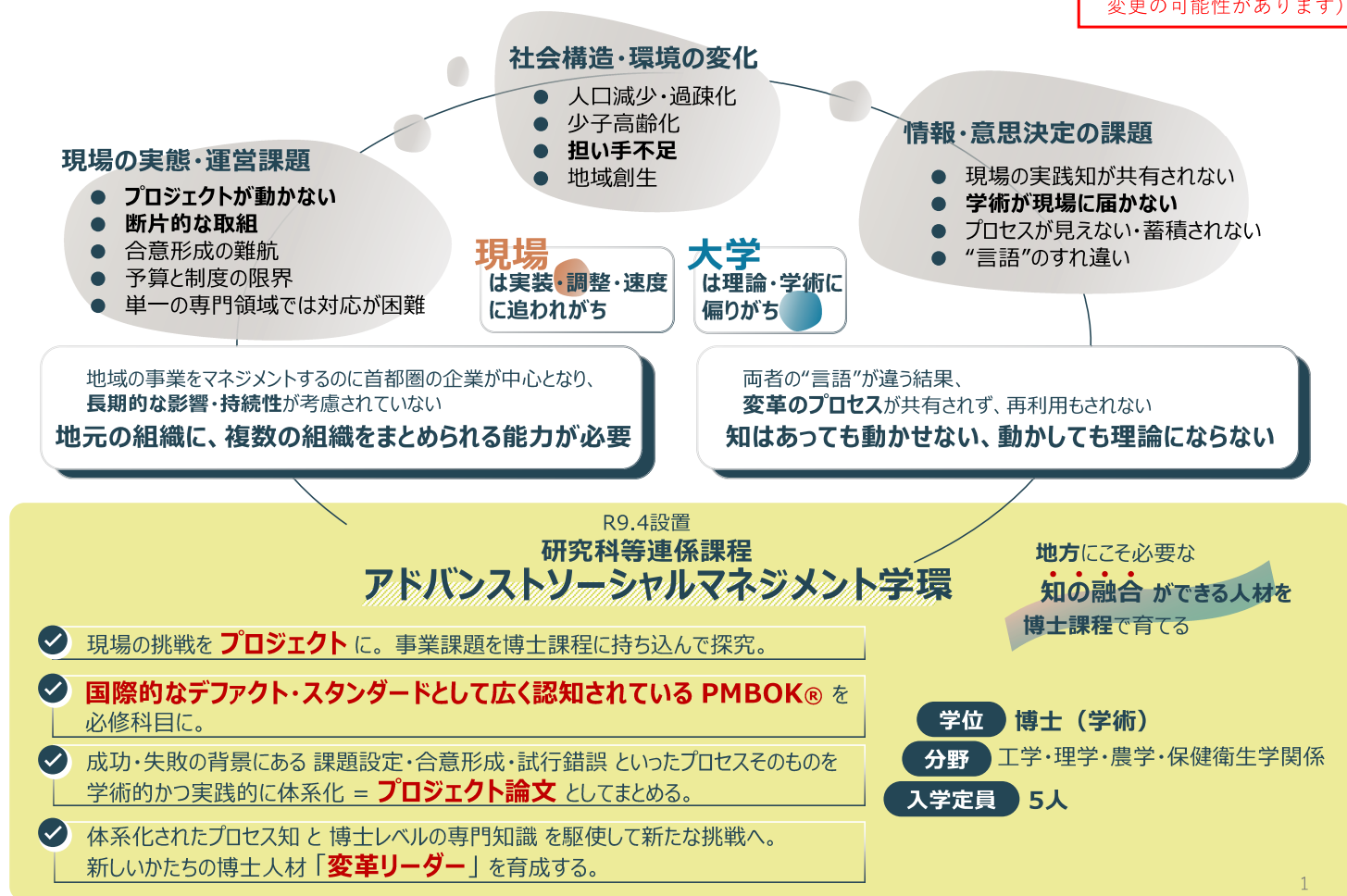


愛媛大学大学院アドバンストソーシャルマネジメント学環
学生の確保の見通し等を記載した書類 参考資料 目次

- 資料 1 ニーズ調査アンケートに係るアドバンストソーシャルマネジメント学環の概要についての説明資料 (PDF 資料)
- 資料 2 本学在学学生に対するニーズ調査アンケートの調査票
- 資料 3 本学在学学生に対するニーズ調査アンケートの結果
- 資料 4 連係協力研究科の定員充足状況

アドバンストソーシャルマネジメント学環 設置の趣旨

CONFIDENTIAL
(現時点で検討中の内容のため、
変更の可能性がありますが)



1

アドバンストソーシャルマネジメントとは（本学環の理念）

CONFIDENTIAL
(現時点で検討中の内容のため、
変更の可能性がありますが)

本学環が掲げる「アドバンストソーシャルマネジメント」とは、国際的なプロジェクト実務の共通基盤としてのプロジェクトマネジメントを手法として、**実践知と学術知**を結びつけるプロジェクトを実装し、社会課題に対する理論的な解決方法を再活用可能なかたちで設計・共有することである。

特定の状況・環境・人間関係など、個別の“現場の条件”のもとでの経験の蓄積から形成される、主に暗黙的・属人的な問題解決の知識を指す。

体系化された理論・方法論・研究成果にもとづき、特定の現場条件に左右されずに適用可能な、明示的で検証可能性の高い知識を指す。

実践知

経験
問題解決
の知識

各受入機関
における
**プロジェクト
の実践**

プロジェクト
マネジメント

協働・実装

課題設定

学術知

理論化・発信

プロセス知

実践知と学術知を往還させながら、特定の変革プロセスがどのような条件や仕組みで機能したかを可視化し、他の状況にも適用可能な形で理論化した知識

プロセス知

養成する人材像と3つのポリシー

CONFIDENTIAL
(現時点で検討中の内容のため、
変更の可能性がありますが)

産業界等の現場と学術をつなぎ、プロジェクトの“プロセス知”で社会を動かす変革リーダー

養成する 人材像

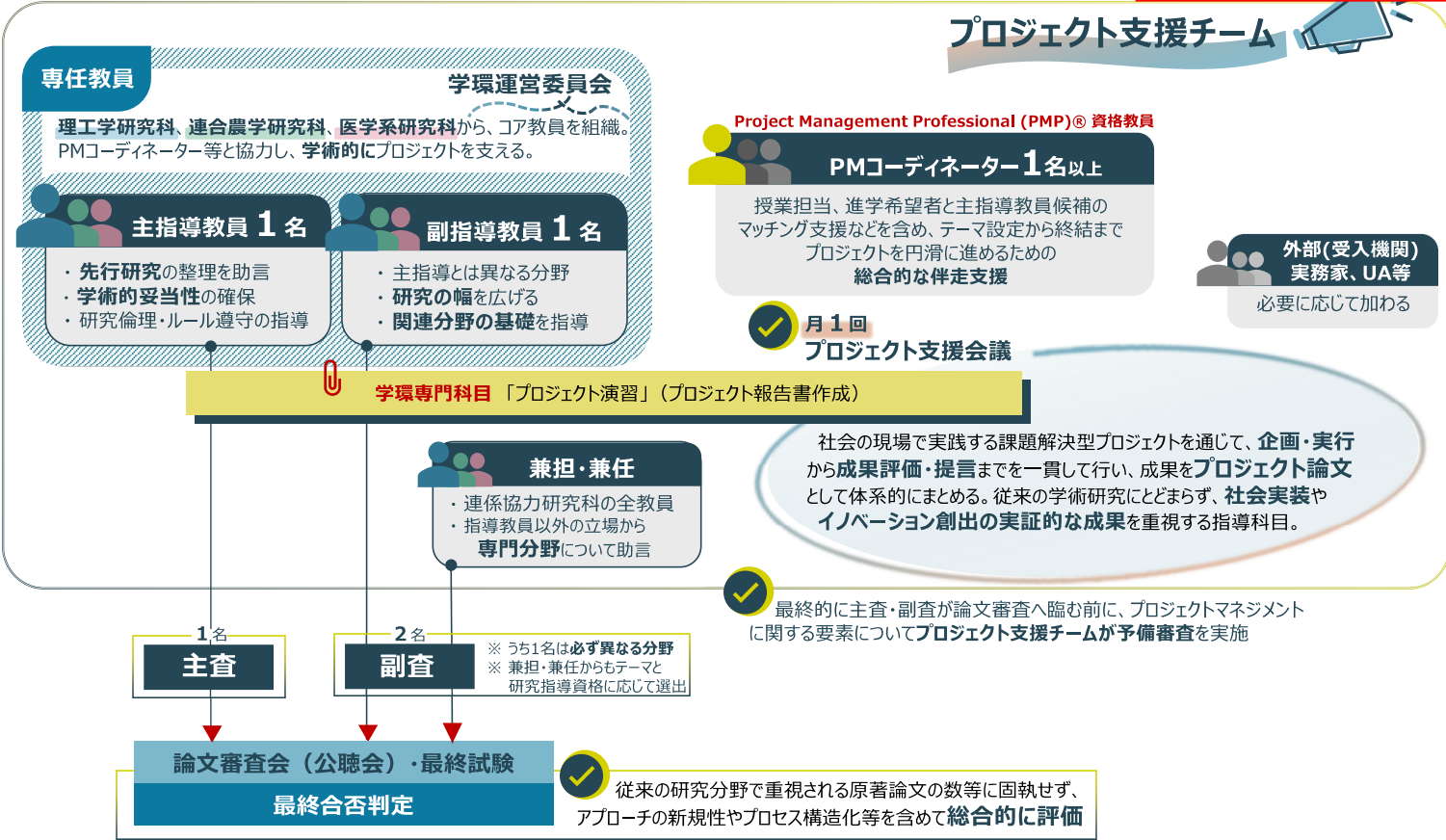
産業界等の現場における知見（実践知）だけでは解決できない複雑な問題に対して、各専門分野の理論や方法（学術知）を用いて分析を行い、解決策を構想し、体系化されたプロジェクトマネジメント手法を基盤としてプロジェクトを実装し、その過程で、何が変革を生み、どのような条件が変革を支えたのかを明らかにするとともに、得られた知見を“プロセス知”として理論化し、これを社会に発信して次の変革へとつなげることのできる博士人材を育成します。

ディプロマ ポリシー (DP)	DP1 課題設定 産業界をはじめとした社会の複雑な問題を、 学術的視点から分析 するとともに、既存の価値や関係性を問い直すことにより、 変革の起点となる課題設定と解決策の構想 ができる	DP2 協働・実装 体系的なプロジェクトマネジメント手法を用いて、 多様な関係者と協働しながら 、設定した課題を解決する プロジェクトを計画・運営・実装 できる	DP3 理論化・発信 実践の過程から得られた 知を抽出・理論化 し、他の場面や地域でも再現可能なプロセスとして 発信 できる
カリキュラム ポリシー (CP)	CP1 先行研究の整理や、分野横断的な 基礎的知識 の修得を通じて、問題の本質を明らかにする能力の教育	CP2 国際的なプロジェクト実務の 共通基盤 であるプロジェクトマネジメント手法を土台に、複数の教員や関係者による伴走支援のもと、 協働しながらプロジェクトを計画・運営・実装 する教育	CP3 主に論文執筆の機会を通じ、実践の過程から得られた プロセスを学術的手法に基づいて理論化 する一方で、 社会に広く普及する形で発信 する能力の教育
アドミッション ポリシー (AP)	AP1 知識・態度 地域や社会の複雑な問題に強い関心を持ち、実践的な視点だけでなく学術的視点からも分析し、主体的に取り組む意欲を有する者	AP2 技能・態度 多様な分野・職種の人々との協働を通じてプロジェクトを推進できる基礎的コミュニケーション能力と実行力を有し、国際的な知識体系としてのプロジェクトマネジメント手法を学ぶ姿勢を有する者	AP3 技能・態度 自らの経験や問題意識を起点とした実践から導き出した学術的な理論を、再現可能なプロセスとして社会へ発信・還元することに関心を持つ者 3

修了までのスケジュール

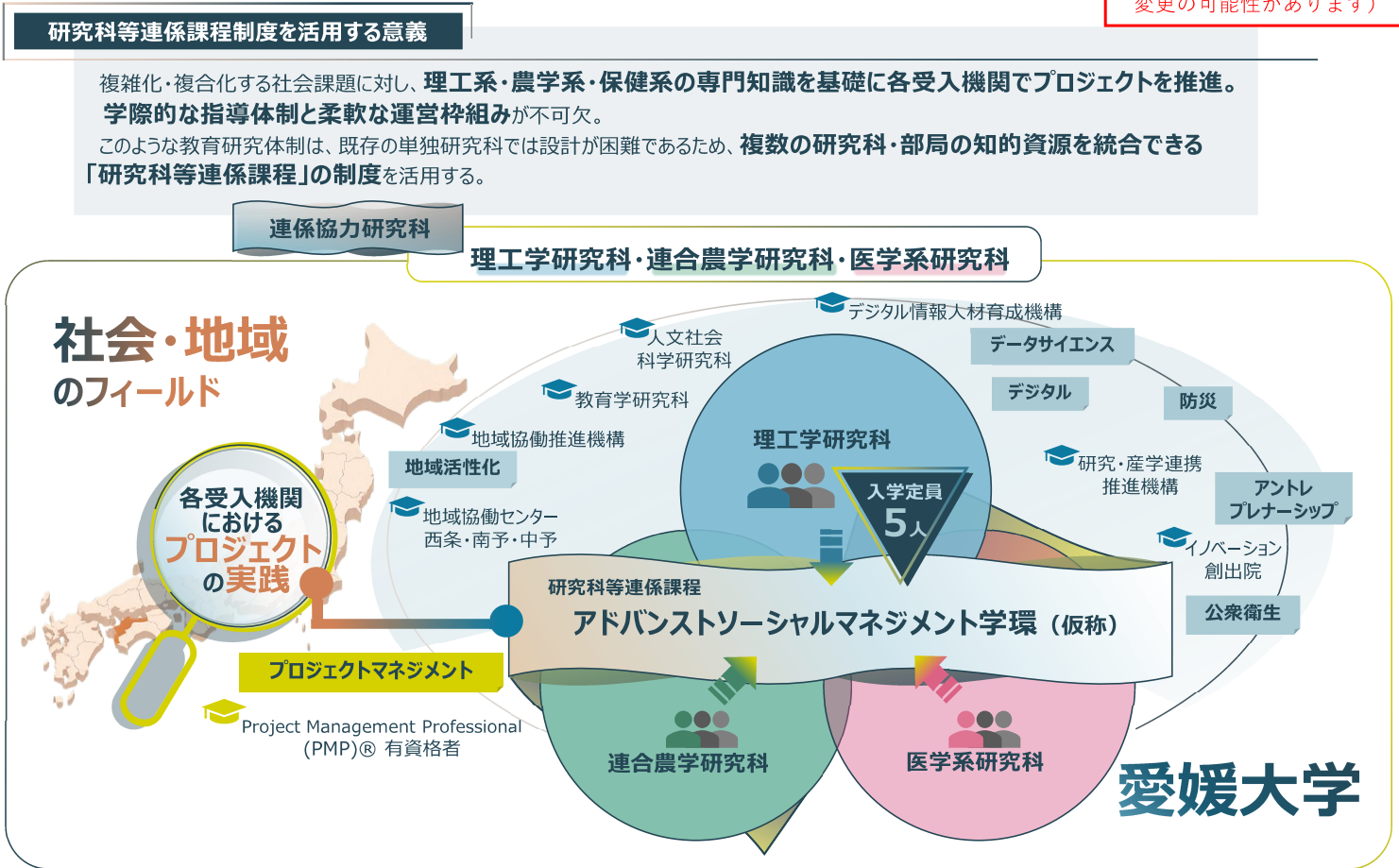
CONFIDENTIAL
(現時点で検討中の内容のため、
変更の可能性がありますが)





5

研究科等連係課程制度の活用

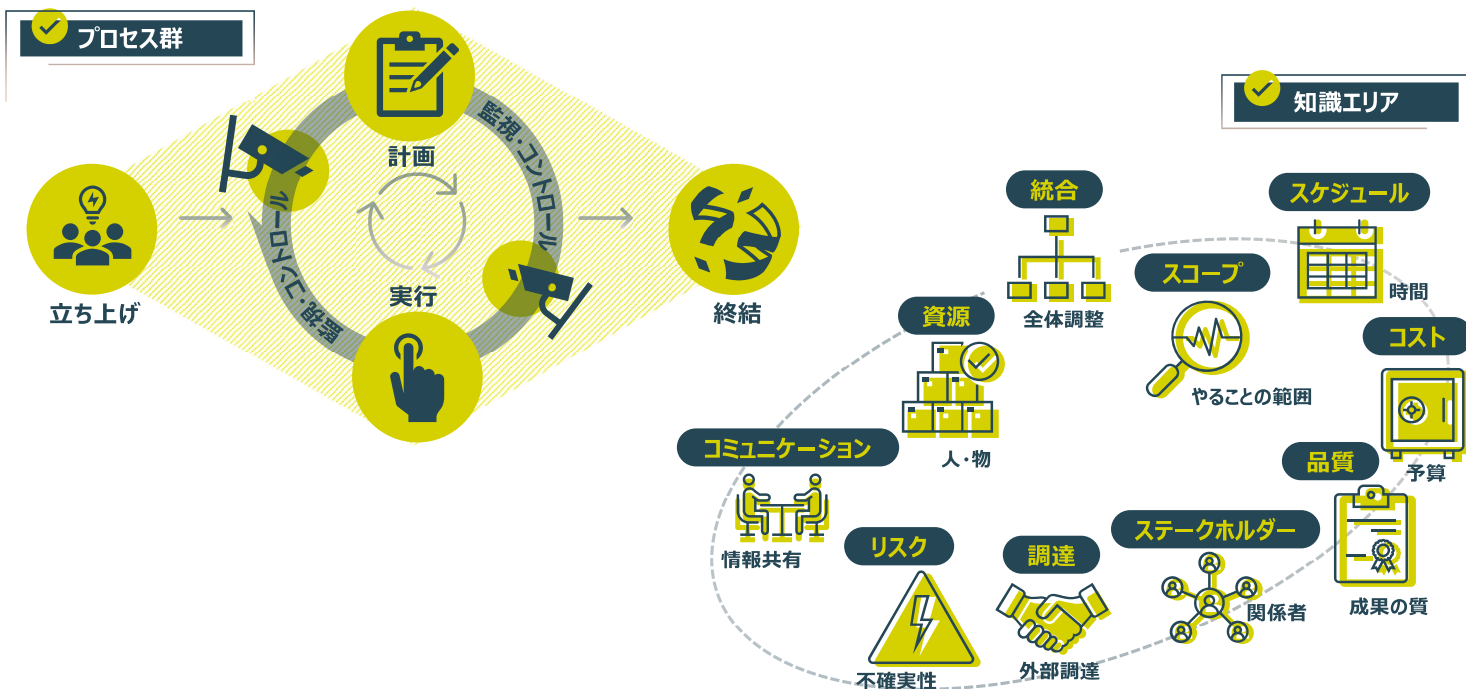


6

複雑なプロジェクトを、期限内に成果へ導くための国際的なプロジェクト実務の共通基盤

本学環で身につけ、手法として活用するプロジェクトマネジメントは、「国際的なデファクト・スタンダードとして広く認知されているPMBOKに準拠した、達成すべき目的・成果物・期限をもつ“プロジェクト”を、体系的に計画・実行・管理するための方法論」

- 立ち上げ、計画、実行、監視・コントロール、終結 の5つのプロセス群と、スケジュール、資源、リスクなどの10の知識エリアで体系化されている。
- プロジェクトマネジメントの本質的な知識と理解がないと、場当たりの進め方になったり、混乱が起こりやすい。
- ここでいうマネジメントとは、「管理する」というよりも「プロジェクトをどうにかして成し遂げる」という意味合いがふさわしい。



7

プロジェクトマネジメントに関する用語・関係性及び現状



PMI
Project Management Institute

- 1969年設立のPM教育・資格・標準化を担う世界最大のプロジェクトマネジメント専門機関（本部：米国）
- 会員約75万人（日本約7千人）、世界200超の国と地域で活動
- 各国支部（Japan Chapterなど）による教育・ネットワーク形成

PMI公式サイト：https://www.pmi.org
PMI日本支部：https://www.pmi-japan.org



PMBOK
Project Management Body of Knowledge

- PMIが策定したプロジェクトマネジメントの知識体系
- 世界各国で翻訳され出版
- PM実務のために広く参照されている
- 規律的実務慣行ではなく模範的実務慣行
- 第6版ではプロジェクト管理方法、プロセス重視
- 第7版では価値創出と原則主導型に進化



PMP
Project Management Professional

- 米国 PMI が認定する国際資格
- プロジェクトを推進するための知識・スキル・態度の広範な能力の証明
- 実務経験・PM教育時間・試験合格が必要
3年ごとに更新要件（継続教育）あり
- 世界200超の国で認定、約164万人（日本約5万2千人）が保有（年々増加）

現場で求められるプロジェクトマネジメント力



社会プロジェクトの複雑化

不確実性の高い環境下で、目標を達成し成果を出す能力が求められる。国際プロジェクトの増加によって、国際標準化に基づくマネジメント力が必須。



政府・公的機関も重視

デジタル庁が「プロジェクトマネジメントの徹底」をガイドラインで明示。経産省・IPAはITSS/DSSでPMスキルを中核能力として位置づけ。



企業評価の高まり

海外ではPMP資格が受注要件になるケースあり。日本でも建設・ITなどでPMP資格を育成プロセスに採用するケースが増加。

【資料2】 本学在学生に対するアンケート調査の調査票

愛媛大学大学院 社会人博士育成のための博士課程（学環）の新設構想に関するニーズ調査アンケート

愛媛大学は、実践知と学術知をプロジェクトマネジメントを手法として融合し、地域・社会課題の解決に取り組む「変革リーダー」を育成する博士課程（学環）の新設を検討しています。

この学環では、PMI（プロジェクトマネジメント協会）が策定する国際標準「PMBOK®」に基づくプロジェクトマネジメントを学び、現場での実践と学術的な構造化を往還する新しい博士像を目指します。

（詳細は、次のURLからご参照ください） <https://ehimeuniv.sharepoint.com/:b:/s/T2637-9029/1QBF2zTXqyT5yIJ7qmUoXNAQ3zYBcvyMW-dqKjBAJ95N4?e=rsITxy>

社会人を主なターゲットとしていますが、構想をより現実的で意義あるものにしていくために、修士課程で学ぶ皆さんのご意見も非常に重要です。博士課程に対する関心や進学の意向、期待していることや不安に感じていることなど、ぜひ率直なご回答をお願いいたします。

回答はすべて匿名で集計され、回答内容によって不利益を被ることは一切ありません。

みなさんの声が、この構想をより良いかたちで具体化していくうえで重要な手がかりとなります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

1. あなたが所属している課程を選択してください。（単一選択） * 

- ☐ 医農融合公衆衛生学環
- ☐ 地域レジリエンス学環
- ☐ 理工学研究科
- ☐ 医学系研究科（看護学専攻）
- ☐ 農学研究科

2. 修士課程への入学年度を選択してください。（単一選択） * 

- ☐ 2022年度
- ☐ 2023年度
- ☐ 2024年度
- ☐ 2025年度
- ☐ 2026年度

3. 修士課程への進学形態を選択してください。（単一選択） * 

☐ 学部からの進学（ストレートマスター）

☐ 社会人としての進学

☐ その他

4. 「社会人博士育成のための博士課程（学環）」について知っていましたか。（単一選択） * 

☐ はじめて知った

☐ 概要は聞いたことがある

☐ 詳しく知っていた

☐ その他

5. この学環の構想（実践知と学術知をプロジェクトマネジメントを手法として融合し、地域・社会課題の解決に取り組む博士課程）に関心はありますか。（単一選択） * 

☐ 非常に関心がある

☐ ある程度関心がある

☐ あまり関心がない

☐ よく分からない

6. プロジェクトマネジメントに関する学習経験はありますか。（複数選択可） * 

☐ 大学の授業で学んだことがある（例：プロジェクトマネジメント概論など）

☐ 資格取得のための講座や研修で学んだことがある（例：PMP試験対策など）

☐ 通信教育やオンライン講座で学んだことがある（例：Udemy、Courseraなど）

☐ 独学で学んだことがある（書籍、AIツールなどを活用）

☐ 学んだことはないが、興味がある

☐ 学んだことはなく、興味もない

☐ その他

7. 現時点で修士課程修了後の希望進路を選択してください。(3つまで選択) *

最大 3 個のオプションを選択してください。

- ☐ 博士課程進学
- ☐ 民間企業（研究・開発職）
- ☐ 民間企業（マネジメント職）
- ☐ 公的機関・自治体での専門職
- ☐ 大学・研究機関での研究職
- ☐ 医療・保健分野での専門職（看護師、保健師など）
- ☐ NPO、NGOなどの非営利組織
- ☐ 起業・事業創出
- ☐ 現職を継続する（社会人学生）
- ☐ 現職に復帰する予定（休職中など）
- ☐ その他

8. 将来的に博士課程への進学を検討したいと思いますか。(単一選択) *

- ☐ 強く検討している
- ☐ 検討している
- ☐ あまり考えていない
- ☐ 全く考えていない

9. 問8. で「強く検討している」、「検討している」を選択した場合にお尋ねします。
検討している進学先について、選択してください。（複数選択可） * ☐

☐ 本構想の社会人博士育成のための博士課程（学環）

☐ 愛媛大学大学院理工学研究科

☐ 愛媛大学大学院総合農学研究科

☐ 愛媛大学大学院医学系学研究科

☐ 四国内・他大学の大学院（博士課程）

☐ 都市部の大学院（博士課程）

☐ オンラインで学べる博士課程（国内外）

☐ その他

10. 問8. で「強く検討している」、「検討している」を選択した場合にお尋ねします。
もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。（複数可）
（例：デジタル、都市計画、食品健康機能、作物生産科学、地域ブランド化、看護学、地域医療） *
☐

回答を入力してください

11. 【進学意向の有無に関わらずお答えください】

博士課程に進学する意義や魅力について、次の項目はどの程度重要だと思いますか？

* ☐ ☐

	非常に重要である	重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	まったく重要でない
自分の研究テーマを深く追求できる	☐	☐	☐	☐	☐
博士の学位（Ph.D.など）を取得すること自体の価値	☐	☐	☐	☐	☐
大学や研究機関で教育・研究職に就ける可能性	☐	☐	☐	☐	☐
社会や地域の課題に専門的に関わる力を高められる	☐	☐	☐	☐	☐
海外での仕事や学術活動で博士号が評価されやすい	☐	☐	☐	☐	☐
人的ネットワークを広げられる	☐	☐	☐	☐	☐
修士では得られない高度なスキルや知識が身につく	☐	☐	☐	☐	☐
指導教員や研究環境に魅力を感じる	☐	☐	☐	☐	☐
就職を急がず、研究に集中できる	☐	☐	☐	☐	☐

12. 【進学意向の有無に関わらずお答えください】

本構想の社会人博士育成のための博士課程（学環）への進学に際して、次の各項目はどの程度障壁になると思いますか？



	非常に障壁になる	障壁になる	どちらともいえない	あまり障壁にならない	まったく障壁にならない
費用面（授業料・生活費など）	☐	☐	☐	☐	☐
時間的制約（仕事・家庭との両立）	☐	☐	☐	☐	☐
受入機関とのマッチング	☐	☐	☐	☐	☐
職場の理解や協力体制	☐	☐	☐	☐	☐
プロジェクトを実装するための環境（現場との調整など）	☐	☐	☐	☐	☐
プロジェクトのテーマ設定や研究計画の枠組み	☐	☐	☐	☐	☐
プロジェクト論文の作成に関する不安（従来の博士論文との違い）	☐	☐	☐	☐	☐
指導体制への不安（主指導・副指導・コーディネーターとの関わりなど）	☐	☐	☐	☐	☐
研究へのモチベーション維持、習慣づけへの不安	☐	☐	☐	☐	☐
評価方法や修了認定に関する不安	☐	☐	☐	☐	☐
進学が社会で評価されにくい	☐	☐	☐	☐	☐

13. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

回答を入力してください

【本構想の社会人博士育成のための博士課程（学環）への進学を前向きに検討している方へ】



14.

今後、学環の設置構想に関するヒアリングを行うとともに、進学を希望・検討している学生の皆さんと教員が直接相談できる機会を設けたいと考えています。

ご関心のある方は、差し支えない範囲でお名前と都合のよい連絡先（メールアドレスなど）をご記入ください。
（任意回答）

※ ご記入いただいた情報は、ヒアリングおよび相談のご案内以外の目的では使用いたしません。

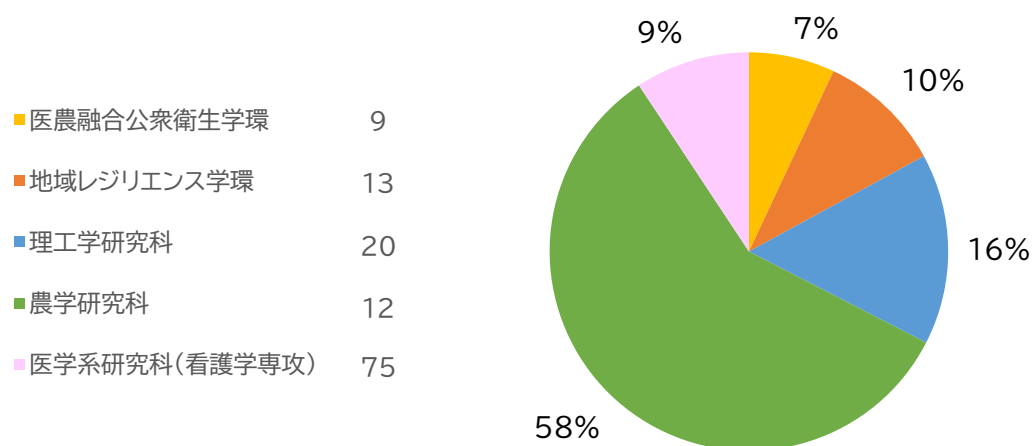
※ 上記アンケートの回答内容と記名情報は紐づけて扱いません。

※ ご希望の連絡手段や時間帯等があれば併せてお知らせください。

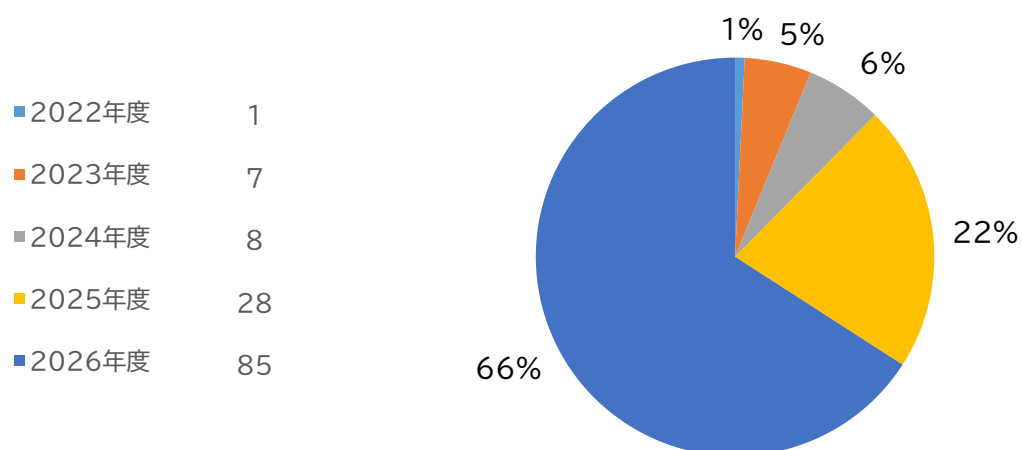
回答を入力してください

【資料3】本学在学生に対するニーズ調査アンケートの結果

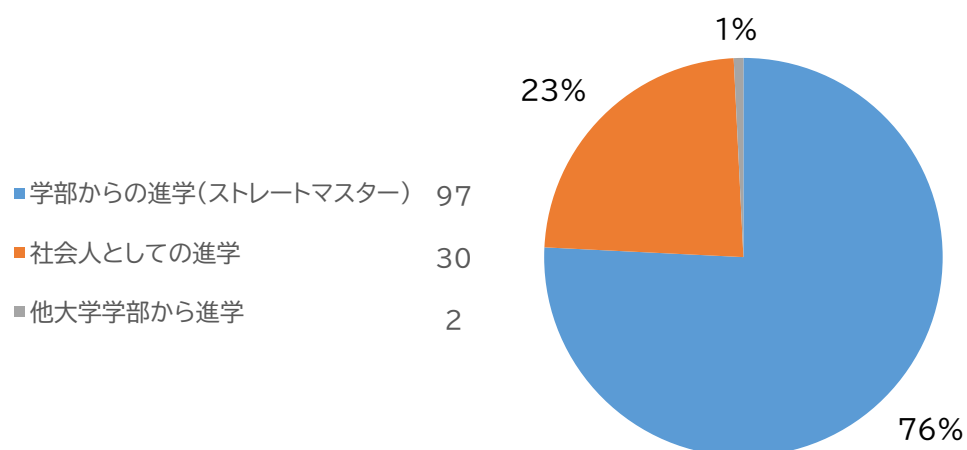
1. あなたが所属している課程を選択してください。(単一選択)



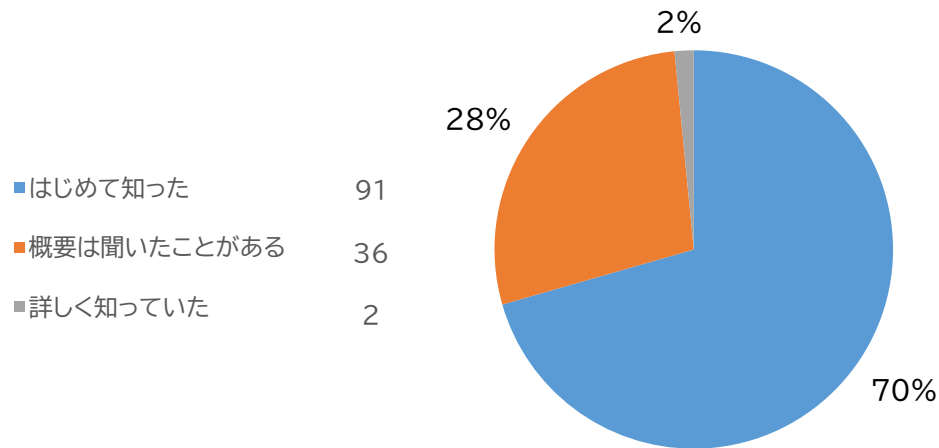
2. 修士課程への入学年度を選択してください。(単一選択)



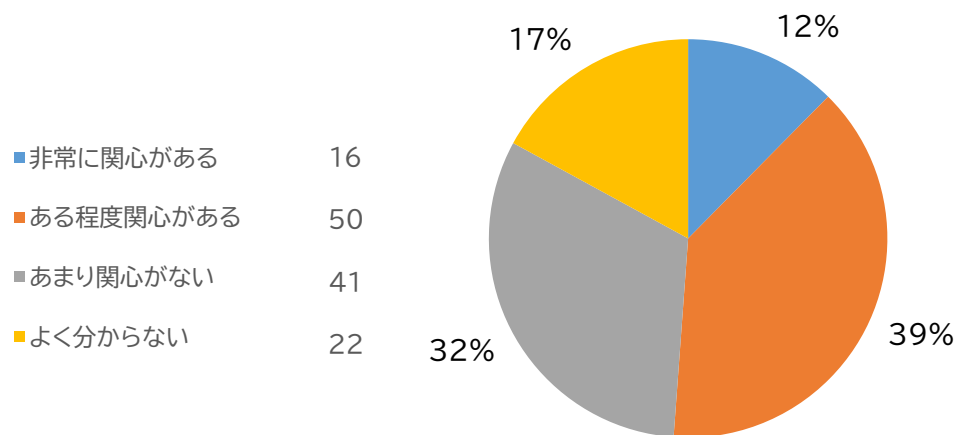
3. 修士課程への進学形態を選択してください。(単一選択)



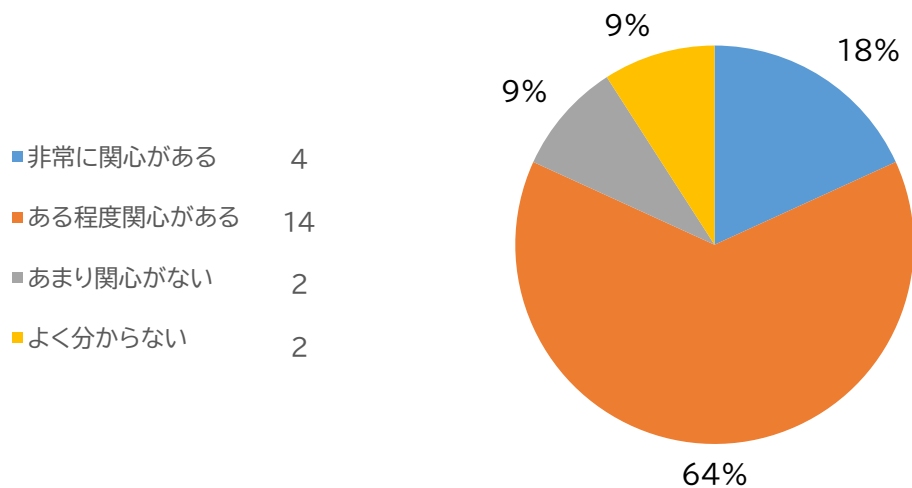
4. 「社会人博士育成のための博士課程(学環)」について知っていましたか。(単一選択)



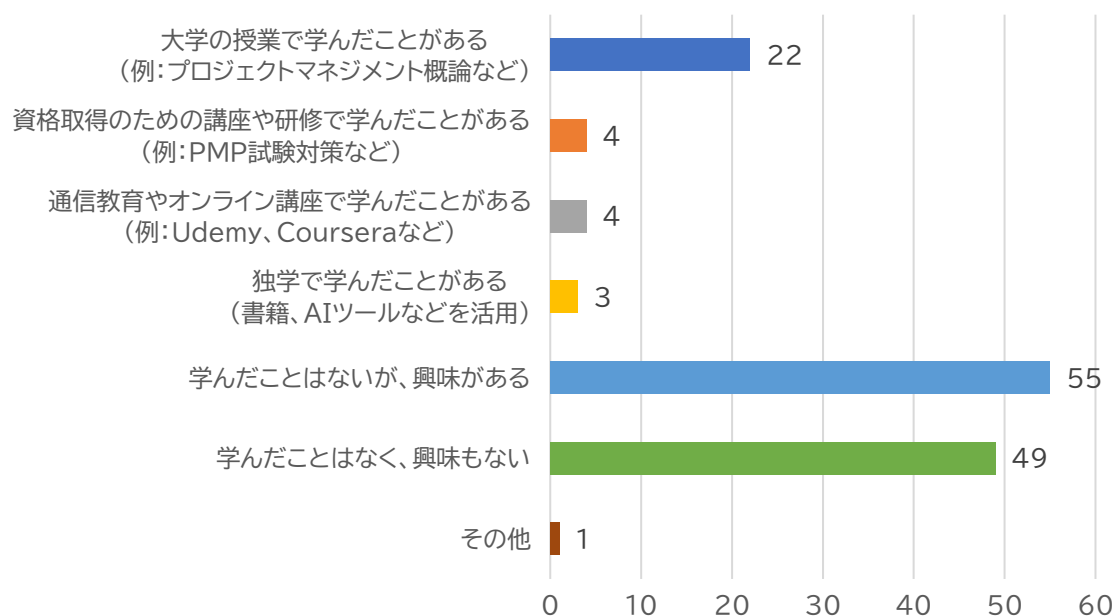
5. この学環の構想(実践知と学術知をプロジェクトマネジメントを手法として融合し、地域・社会課題の解決に取り組む博士課程)に関心はありますか。(単一選択)



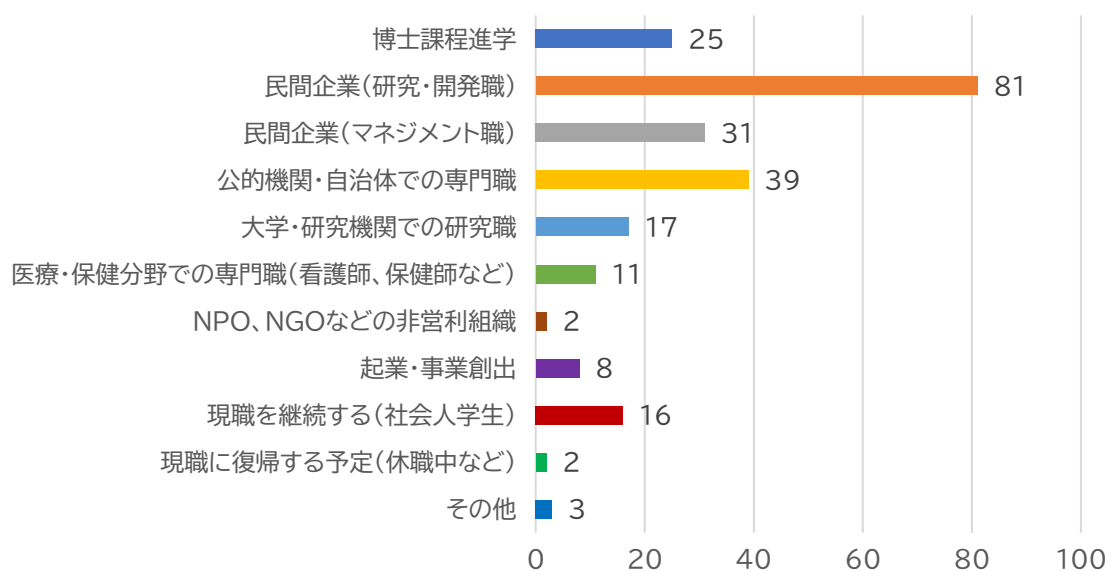
※ 問5の内、地域レジリエンス学環及び医農融合公衆衛生学環に在籍する学生からの回答(抜粋)



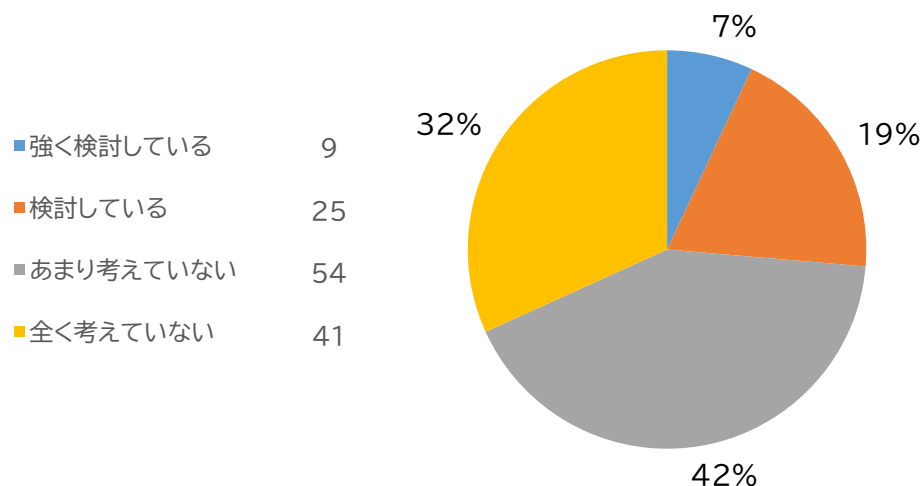
6. プロジェクトマネジメントに関する学習経験はありますか。(複数選択可)



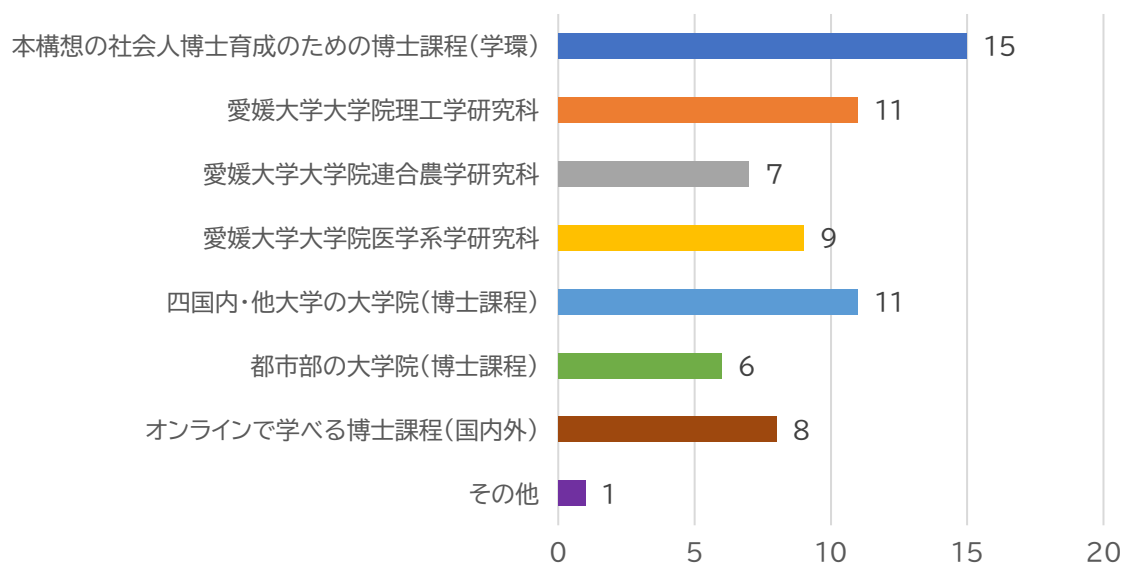
7. 現時点で修士課程修了後の希望進路を選択してください。(3つまで選択)



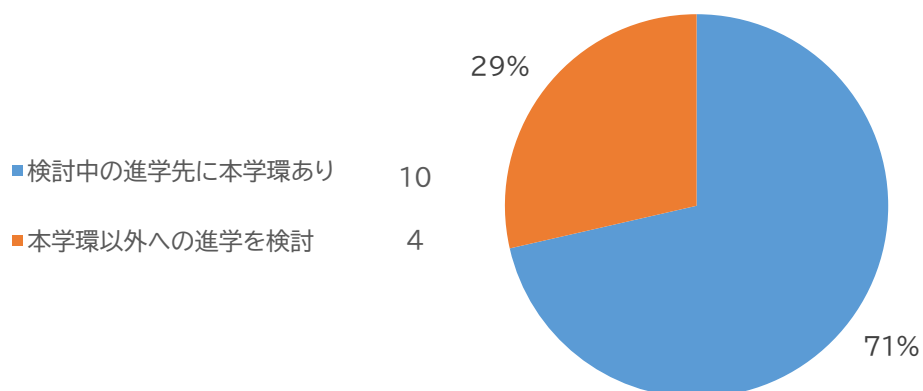
8. 将来的に博士課程への進学を検討したいと思いますか。(単一選択)



9. 問8. で「強く検討している」、「検討している」を選択した場合にお尋ねします。検討している進学先について、選択してください。(複数選択可)



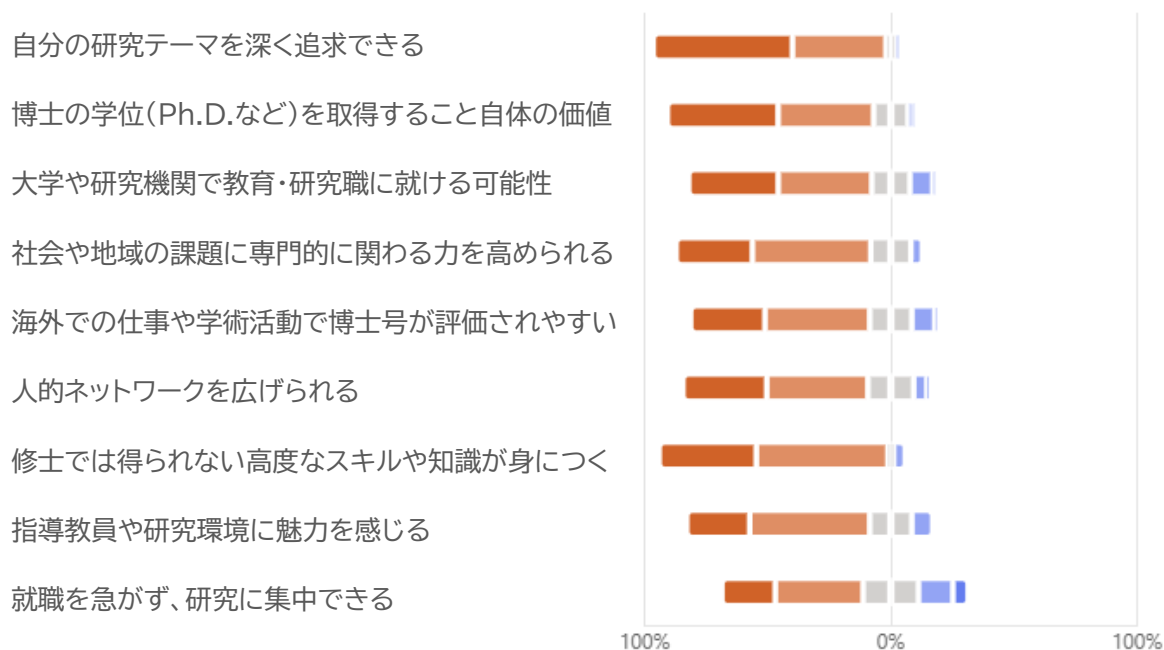
※ 問9の内、地域レジリエンス学環及び医農融合公衆衛生学環に在籍する学生からの回答(抜粋)



10. 問8. で「強く検討している」、「検討している」を選択した場合にお尋ねします。
もし博士課程に進学したら、学びたい専門分野を教えてください。(複数可)
(例: デジタル、都市計画、食品健康機能、作物生産科学、地域ブランド化、看護学、地域医療)

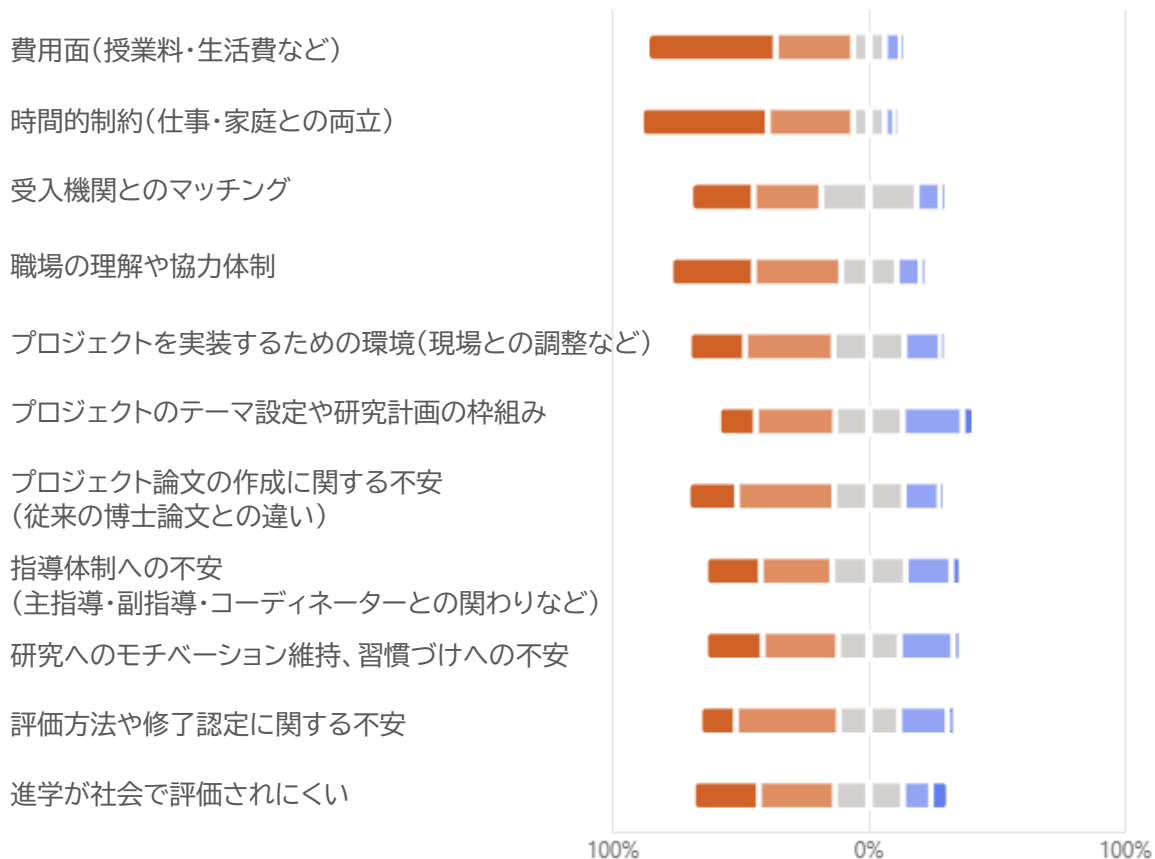
1	公衆衛生、産業保健、精神保健
2	公衆衛生、疫学
3	看護学、地域医療
4	あまり考えていない
5	医療、公衆衛生、マネジメント、MBAなど
6	看護学
7	医療
8	都市計画
9	人類学
10	都市計画
11	地盤工学、砂防工学
12	デジタル、経営
13	自治体政策、都市計画
14	歯科
15	地域資源の利活用、関係人口、都市計画
16	AI、教育、通信
17	都市計画、地域課題解決(人口減少対策、防災計画等)
18	教育、AI、地域計画、コミュニティ、持続可能性、行政評価、ワークショップ
19	都市計画、地域創生、地域医療
20	看護学
21	理論鋳物物理学、特に第一原理計算による物性評価
22	植物学、生物情報学、分子生物学、古植物学
23	物理
24	化学
25	流体力学
26	地域医療
27	地盤工学
28	深層学習
29	都市計画
30	看護学
31	看護学、地域看護学、他分野との協働、防災関連
32	都市計画、防災
33	環境衛生
34	Instrument & Control Engineer
35	農業農村工学
36	植物病理学
37	生命科学
38	ブランド化等の文理融合系、作物生産科学、食品機能学

11. 【進学意向の有無に関わらずお答えください】
博士課程に進学する意義や魅力について、次の項目はどの程度重要だと思いますか？



●非常に重要である ●重要である ●どちらともいえない ●あまり重要ではない ●まったく重要ではない

12. 【進学意向の有無に関わらずお答えください】
本構想の社会人博士育成のための博士課程(学環)への進学に際して、次の各項目はどの程度障壁になると思いますか？



●非常に障壁になる ●障壁になる ●どちらともいえない ●あまり障壁にならない ●まったく障壁にはならない

13. その他、博士課程への進学について障壁や課題と感じていること等、ご意見があればぜひご教示ください。

1	社会人として博士課程への進学を検討する際、単位取得の方法は非常に重要な課題になると感じています。日中は仕事があり、松山近郊に在住していない場合、平日に開講される対面授業へ参加することは容易ではありません。単位取得が対面授業がメインになると、社会人として仕事と学業を両立することが難しくなります。職場から進学の許可を得ていたとしても、必ずしも自由に休めるわけではなく、業務調整や他スタッフとの兼ね合いが必要となるためです。そのため、社会人学生を受け入れていくためには、柔軟に受講できる体制の整備が不可欠であると考えます。
2	住居が遠隔
3	本構想の博士課程について今日初めて知った事なので、添付資料を見ても今一つどういう立ち位置での役割を担う人材を育てていきたいのか、理解が追い付いていません。官と民と学が連携して地域課題を多面的に解決に導いて行きたいのかな、くらいの理解です。博士課程に興味はありますが、障壁は時間とお金とモチベーションです。時間については、オンライン授業などでの対応を継続して欲しいです。修士+博士課程となると、いくら社会人とはいえ金銭的に苦しいです。雇用保険の専門実践教育訓練にしてもらえたら助かります。それから、リサーチアシスタントのようなアルバイトがあれば嬉しいです。それと、深掘りできる研究は結局のところ指導教員の分野だと思うので、モチベーションの維持というか、何を目的に博士課程に進学するのかという部分が大きいと思います。そんなこんなで迷い中です。
4	職場の理解が得にくい 今は学環で学んでいるが、看護学の博士課程で自分の力が通用するのか不安である 担当教諭が変わるのかどうかなど、詳しい情報がないこと
5	費用面においては、特待生制度や免除・補助などがあると有り難いです。
6	費用、職場の理解が必須になること
7	仕事をしながら、受講・研究・論文作成の時間の捻出ができるかどうか心配ではある
8	お金が一番気になる
9	博士後期課程への進学にあたり、最も大きな障壁は「時間の確保」と「経済的負担」であると感じています。特に現職のまま進学する場合、勤務との両立が難しく、研究時間の確保などが課題です。また、学費や研究費に加え、収入減少の可能性もあり、家庭を有する立場としては大きな負担となります。これらの課題に対して、経済的支援制度の充実、ならびに学位取得者のキャリアパスの明確化が求められると考えます。
10	博士課程へ進学してみたいが、50代からの博士課程だと、今から4.5年かけて博士課程を修めた後、残り何年働けるか、どこまで貢献できる、と言う心配がある。社会の中で、博士課程進学と進学後の魅力があまり伝わってこない。
11	いちばんは費用面と時間の工面だと思いますが、奨学金制度や補助が手厚ければ検討材料になると思います。
12	遠方に居住している場合、勤務しながら対面授業が多いと仕事との調整が大変です
13	博士課程修了後の進路の選択肢の少なさ、不透明感
14	博士号取得者の母数を増やすよりも、今後の博士号取得(予定)者の質(研究遂行能力、心身のセルフマネジメント、考察力など…)を高めるサポートが充実すれば良いと感じております。また日本の社会自体が、博士号取得者の強みを活かしてきていないため、社会的な受け口の拡充と理解の浸透が課題であると思います。
15	私自身は、引き続き博士課程か修士課程に 進学したい意向です。農学研究科か医農関連に大変興味があります。

16	女性の場合、年齢が上がって社会に出ることへの不安があると思います。結婚妊娠出産等。
17	博士課程卒業後の就職先、給与等の想像がつかない。
18	熱意があっても、アカデミックな分野で自分は力を発揮できるのかという不安が私にとって最も大きい障壁であると感じています。
19	その課程を修了することに対して、世間が需要を感じてくれないと職業選択に繋がらないのではと心配。

【資料 4】 連係協力研究科の定員充足状況

